

平成23年12月26日

東京電力株式会社

燃料デブリ取り出し準備の活動方針

1. 目的

震災時に運転中であった1～3号機は、いずれも炉心損傷に至っており、炉心燃料は燃料デブリとなって、その一部は原子炉圧力容器から原子炉格納容器内に流れ出ているものと推定される。また、炉心に注入した冷却水は原子炉格納容器から原子炉建屋内に漏れいしている状態にある。燃料デブリの取り出しに着手するまでに必要な作業の多くは、高線量下にある原子炉建屋内で行われることから、技術的課題が多く、現時点で具体的な方法を確定的に決めることは困難であるが、燃料デブリの冷却や放射線の遮へい等の観点から水中で燃料デブリを取り出すことが最も確実な方法であると考えられる。

このため、炉心燃料（燃料デブリ）を水中で取り出すための準備として、建屋内の除染、格納容器バウンダリの構築、格納容器・圧力容器の内部調査、原子炉建屋コンテナ等の設置、などを行うことを目的とする。

2. 実施内容

- 原子炉建屋内の線量を低減するため、研究開発された遠隔装置等を使用して原子炉建屋内の人がアクセスするエリアを中心に除染する。また、汚染状況や除染結果等を踏まえ、必要に応じて遮へいを設置する。
- 格納容器バウンダリを構築するため、研究開発された遠隔装置等を使用して格納容器等の漏れい箇所を調査する。また、必要な補修装置等を研究開発し、それらを使用して補修する。
- 燃料デブリの取り出し工法や装置を検討するため、研究開発された遠隔装置等を使用して格納容器や圧力容器内の燃料デブリの状況調査やサンプリングを行う。
- 格納容器や圧力容器の腐食に対する健全性評価結果等を踏まえ、必要に応じて更なる腐食抑制対策を講じる。
- 燃料デブリの取り出し工法や燃料デブリ収納缶等に適した原子炉建屋コンテナ等を設置する。

3. 主な課題

現場の環境が通常とは大きく異なることや、遠隔装置等の開発に多くの技術的課題があることから、安全要求事項等の対応状況も考慮しながら、段階的に工程を進めていく必要がある。

4. 予定

① 至近1ヶ月の予定

遠隔装置等の研究開発およびPCV・RPVの健全性評価に着手

② 至近1年間の予定

建屋内除染に着手（開発成果の現場実証を含む）

以上